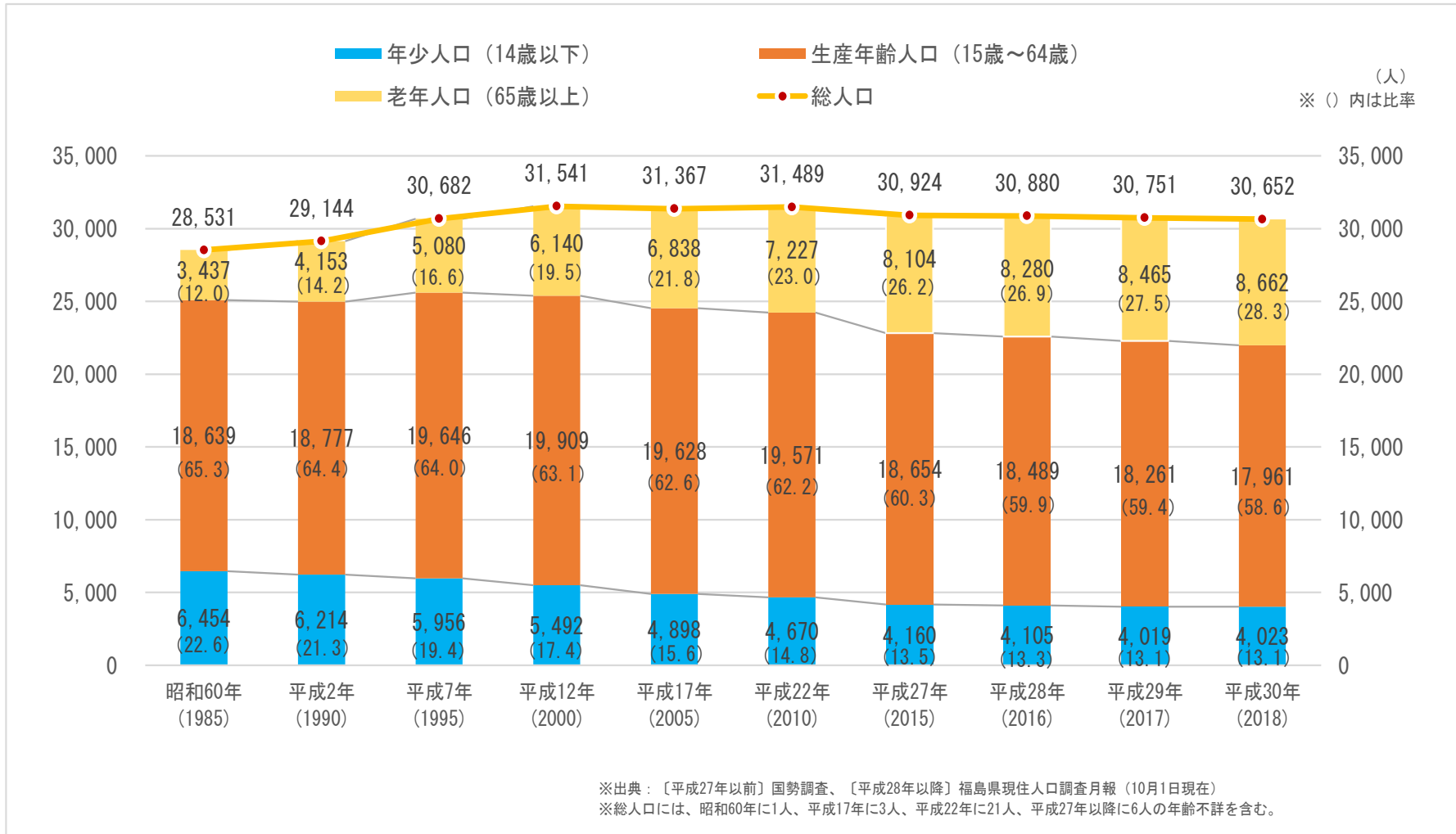


■人口（年齢3区分）の状況

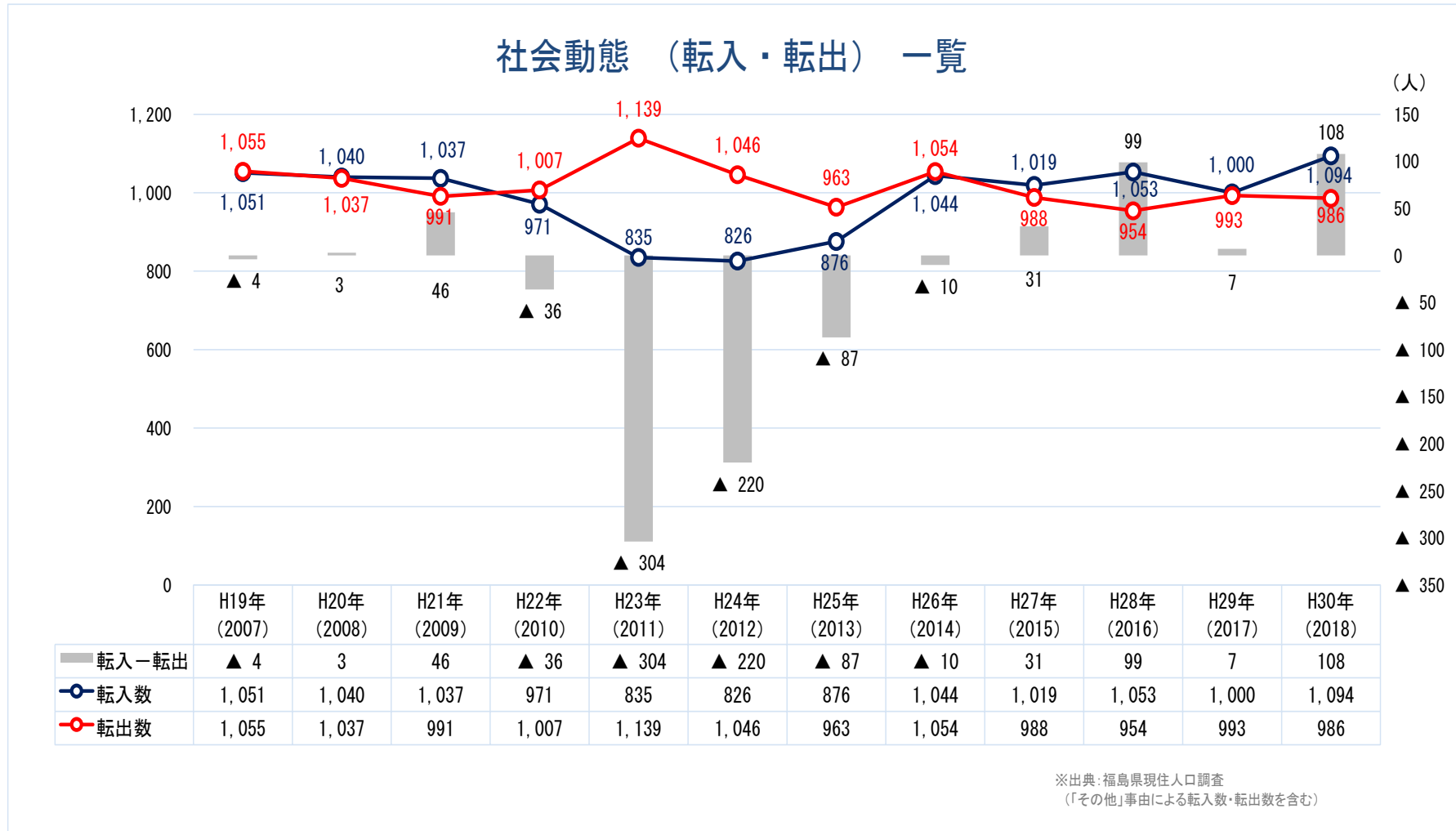
- 平成30年10月1日現在において、総人口は30,652人となり、前年同時期と比較し99人の減となった。
- 年齢3区分をみると、総人口に占める割合は、昨年から年少人口は横ばい、生産年齢人口は0.8ポイント減、老年人口は0.8ポイント増となっており、**少子高齢化の傾向は続いている。**



本宮市の社会動態（1）

■社会動態（転入・転出）

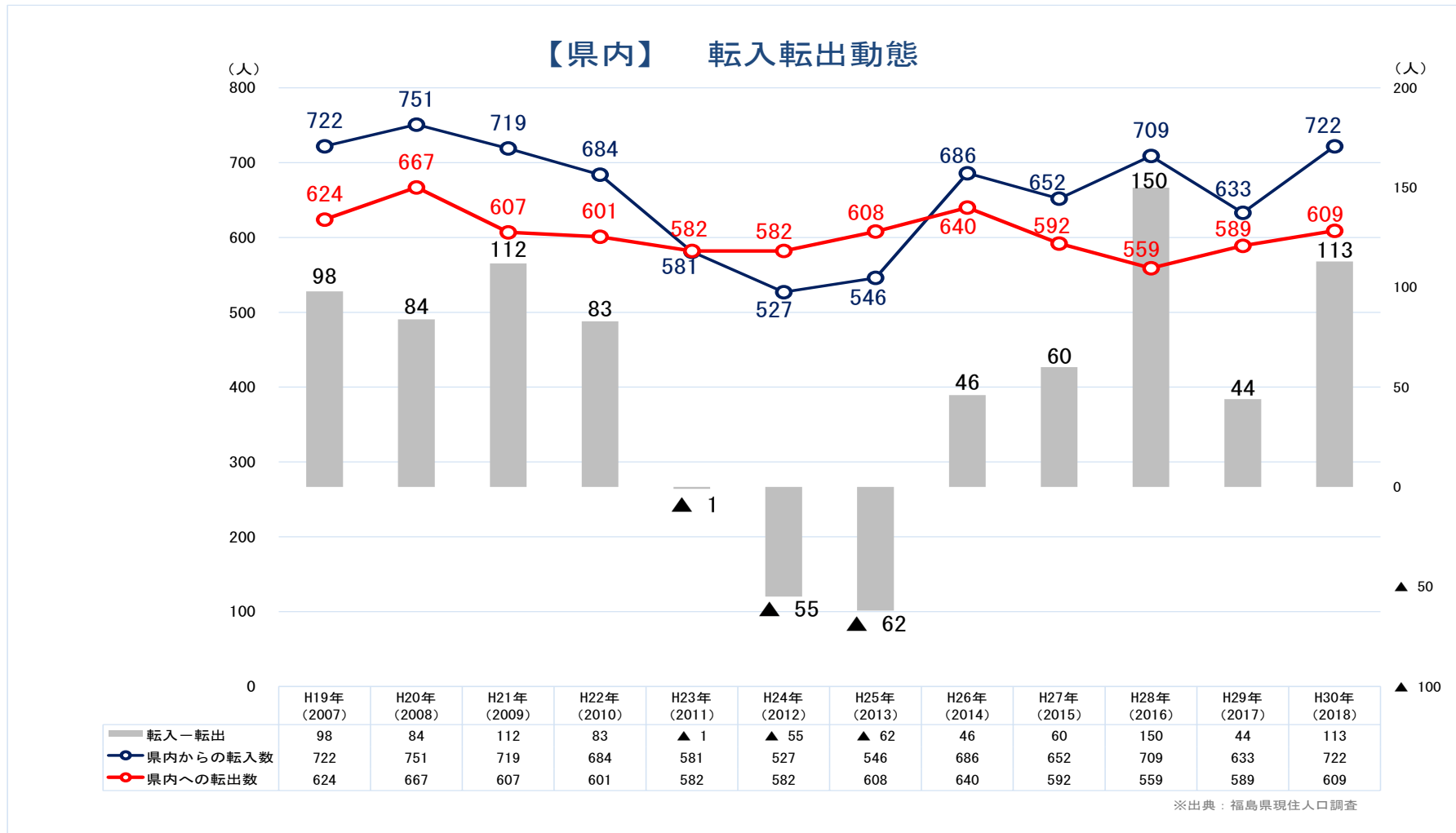
○ 平成30年は転入超過（108人）であり、前年比で転入が94人増、転出が7人減となり、震災後最も社会動態人口が増加した。



本宮市の社会動態 (2)

□ 県内社会動態 (転入・転出)

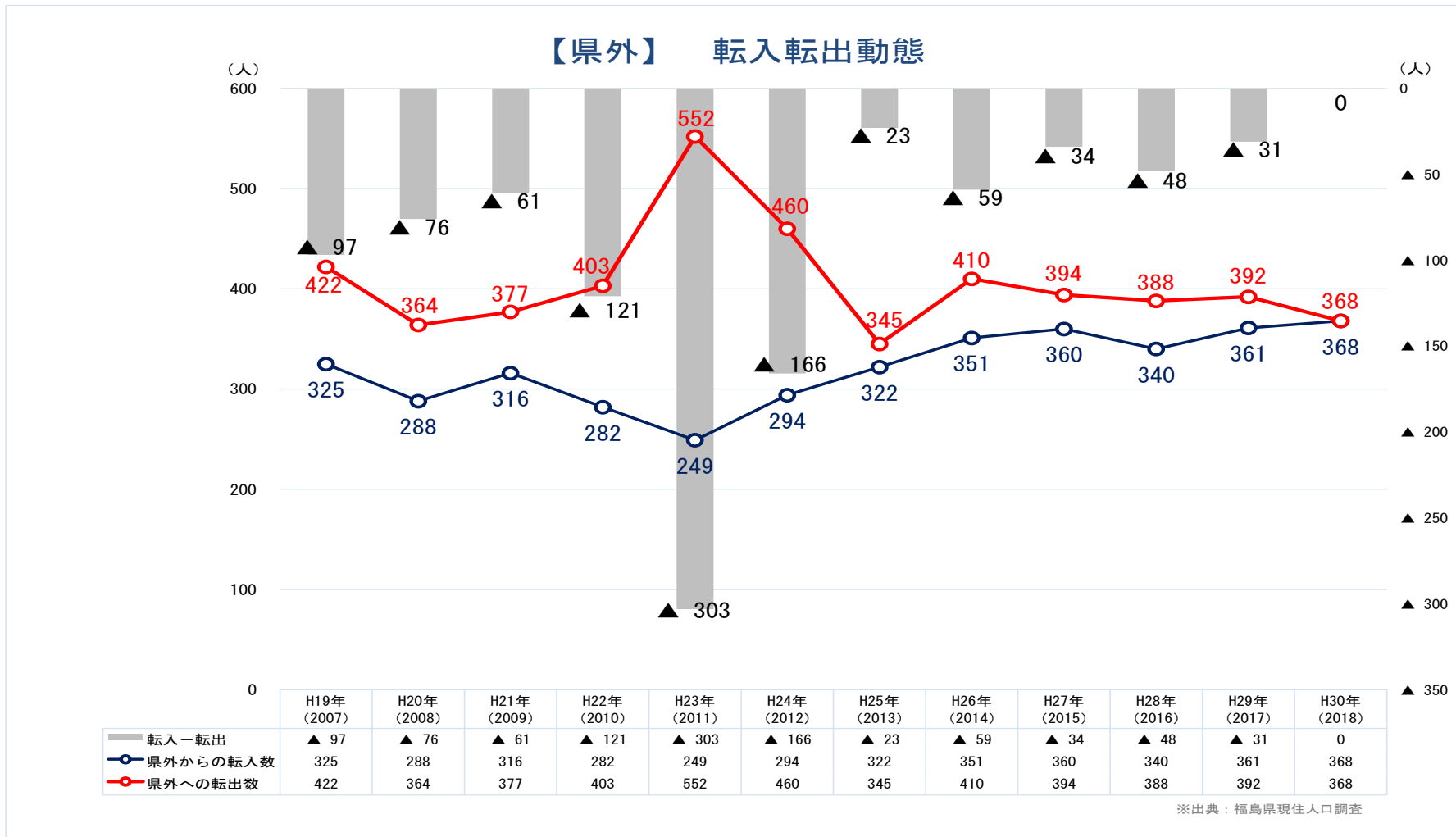
○ 県内自治体との社会動態は、平成26年以降は震災前同様、転入超過となっており、平成30年は前年比2.5倍の転入超過となった。



本宮市の社会動態 (3)

□ 県外社会動態 (転入・転出)

○ 県外自治体との社会動態は、平成19年の合併以降初めて±0となった。県外からの転入者数は震災以降増加傾向にある一方、県外への転出者数は横ばいで推移していることから、**県外への転出超過数は減少傾向**に向かっている。



本宮市の自然動態

■自然動態（出生・死亡）

- 平成24年より微増傾向にあった出生数が、平成29年は急減（前年比34人減）し、平成30年は横ばいとなった。
- 死亡数は平成29年と比較し増加（16人増）となり、自然動態の減少幅は合併以降最大となった。

